

MTV Networks Japan 番組審議会議事録

1. 日 時 平成 26 年 9 月 30 日 (火) 午前 11 時 00 分
2. 場 所 MTV Networks Japan 株式会社 B2F 会議室
東京都渋谷区神宮前 2-8-2
3. 出席者 審議委員総数 8 名
出席審議委員数 8 名

(出席委員名)

- 委員長 片岡 朋行 (ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士)
- 副委員長 小山 康明 (株式会社ビデオテック 取締役)
- 委員 金井 文幸 (一般社団法人 日本音楽制作者連盟 事務局長)
- 委員 清水 直樹 (株式会社クリエイティブマンプロダクション 代表取締役)
- 委員 竹村 謙二郎 (オリコン・エンタテインメント株式会社
オリジナル・コンフィデンス編集部 主任)
- 委員 松居 秀之 (株式会社ピクス 常務取締役)
- 委員 松尾 健司 (株式会社 J-WAVE 編成局次長 兼 編成部長)
- 委員 丸山 信人 (株式会社インプレスホールディングス 執行役員 CPO)

(シーエス・ワンテン)

- 今堀 元則 (代表取締役社長)
- 渡辺 慎一 (業務推進本部 業務推進本部長)

(以上敬称略)

(事業者側)

- 沼倉 重夫 (代表取締役社長)
- 太田 秀樹 (クリエイティブ&コンテンツ本部 本部長)
- 岡田 純明 (クリエイティブ&コンテンツ本部 シニアマネージャー)
- 持田 大輔 (放送メディア事業本部 本部長)
- 石田 千佳子 (放送メディア事業本部 部長)

(事務局)

- 長谷川 晃二 (クリエイティブ&コンテンツ本部 シニアマネージャー)
- 吉田 史恵 (法務部)

4. 議 題

- (1) 番組審議委員会の背景説明
- (2) 現在の番組編成と 2014 年 10 月の改編について
- (3) 課題番組について

委員からの意見・質問と MTV の回答

5. 議事内容

- (1) 番組審議委員会の背景説明

シーエス・ワンテンを通じ、総務省から東経 110 度 CS 放送の衛星基幹放送業務の認定が適当と認められ、スカパー！にて 2012 年 12 月 1 日よりハイビジョン放送を開始。それに伴い、衛星基幹放送業務の法令に準拠する形で、放送番組の改善、向上と適正を図るための番組審議委員会を年 2 回開催、その議事録をホームページに掲載する。

委員長、副委員長の留任を確認後、太田本部長より現在の MTV 編成の概要と課題番組の説明を行った。

- (2) 現在の番組編成と 2014 年 10 月の改編について

2014 年 4 月より洋楽・邦楽の比率を大きく変更した。現在 7 : 3 である比率を、2014 年 10 月改変改編より洋楽比重を 7.5 割～8 割に高めていく予定。洋楽重視の姿勢を特色として全面に押し出し、ブランド力を強めていく方針。

番組ラインナップには、「MTV VIDEO MUSIC AWARDS (VMA)」などのイベント、レディー・ガガ&トニー・ベネットのライブ、海外アーティスト特集など、目玉コンテンツを取り揃えている。

- (3) 課題番組について

2014 年 6 月に実施した国際的音楽授賞式「MTV VIDEO MUSIC AWARDS JAPAN (VMAJ)」。13 回目を迎えた今年は、日本国内の約 2000 万世帯に同時生中継されたのと同時に、アジアを中心に生放送も実施。

8 月には MTV が毎週金曜夜に全世界的に放送しているライブ番組「MTV WORLD STAGE」において、VMAJ のダイジェスト版が約 5 億世帯に向けて放送された。

- (委員からの意見・質問と MTV の回答)

*バラエティーに富んだゲストにより飽きさせない工夫がされていると感じた。日本のアーティストを海外に紹介していくことは大切だと思うが、海外で放送された時の反響や広がり、またアジア各国の MTV で今回のようなイベントを行ない放送する

といったこともできるのか、といった点が知りたい。

*会場では楽しめたが、テレビで番組としてみると長いという印象があった。アワードが終了してからのアーティストライブが“おまけ”感があり、出演アーティストが気の毒に思えた。ビデオアワードのため、受賞作品をもう少しクローズアップしても良いのでは？

*出席できなかった受賞アーティストのコメントが **VTR** でもいいので多めに揃えた方が良かった。**CM** 中のトークが流れを切ってしまった印象。**MTV** ファン注目のイベントであるので、ファンをもう少し会場に招待できれば良いと思った。

*洋楽アーティストの割合を増やして欲しい。**MC** が年ごとに替わるよりも固定の人物の方が、安心感があって良いのでは。サプライズ的な仕掛けがもっと欲しい。

*“ここでしか見られない”パフォーマンスがもう少しあると良かった。ミュージックビデオの映像表現も掘り下げて紹介していくなどするとより良かった。

*映像クリエイターについても紹介していくと、日本のミュージックビデオのおもしろさを一層アピールできるのでは？海外での反響も気になるところ。アーティストの選出基準などを細かく説明してくれた方が見る側も盛り上がるのではないかな。

*イベントを生放送で届けたというのが素晴らしい取り組みであった。

*放送倫理に照らして問題のある点はなかった。感想としては、賞の透明性と、主役はミュージックビデオであるという 2 点を意識してはどうか。アワードであるからには、どういう審査基準で選出されたかをよりわかりやすく出した方が良く、また、イベントの主役であるミュージックビデオのハイライトシーンを見せるなども必要。プレゼンターが受賞ミュージックビデオの良かった点をあげるなど、工夫もできるのでは。

*タイムシフト視聴などの対応がとても良かった。洋楽比重をより高めるということだが、**MTV** には日本のアーティストを海外に紹介していくというミッションもあると思うので、対象アーティストのミュージックビデオに加えてライブ映像を放送するなど、コンテンツの濃度を上げて頂きたい。

***SNS** を舞台に活躍するゲストが出演していたにも関わらず、**SNS** が活用しきれていない。**SNS** と連携してユーザー参加型の積極的な発信が必要。

*アジアにアピールしていくというのであれば、アジアのアーティストを呼ぶなどはどうか？

<質問への回答>

*SNS に関して、Twitter とタブレット端末のカメラを連動させた「Twitter Mirror」という取り組みを行ない、出演者がツイートを行なったことにより、リツイート数は昨年比 5 倍、ハッシュタグを使ったツイート数は昨年比 2 倍となった。

*海外も含めた生配信、生放送ということで権利処理が難しい側面があった。

*いろいろな国でアワードが開催されたりしているが、そういった海外でのイベントに国内アーティストの出演を打診する対応をとっている。

*視聴率について、生放送の効果もあり、昨年よりも上がっている。

*アワードでありつつ、放送番組という性質も有しているため、極力イベントの流れを断ち切らない形で広告を流すよう努めている。

*選考の透明性について、ミュージックビデオの実際の視聴数と投票数でカウントされており、bot 等の自動投票には制限をかけた。期間中の投票数は約 400 万件、オフィシャルサイトのページビューは約 1000 万件（当日は約 30 万件）。

*アメリカの MTV で行なった「2014 MTV Video Music Awards」などを見ている、SNS との親和性の高さは証明されているので、日本においても積極的に取り組んでいきたい。

*ミュージックビデオの作品性について、評価の基準に入っているが、作品性の定義は明確ではなく、改善の余地はあると認識している。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた平成26年9月30日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

平成26年11月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

8. その他の参考事項

平成 27 年度上期の番組審議委員会は平成 27 年 3 月に開催予定。

以上